



③ 常時備蓄品パック

平常時から備えておくべき物品。これ以外にも自分に必要なものがあれば準備する。

水と食糧／買い置き品として確保し、常に新しいものを使えるような工夫で十分。

FM ラジオ／停電対策として乾電池で作動することが最低条件。車載のラジオも役に立つ。

懐中電灯・予備電池／個人用と、ある程度大型な世帯用を準備。

ポリタンク／断水時に流し台に設置。運搬用もあれば便利。

衣類／下着（2日分）、靴下、長袖シャツ、ズボン、手袋（薄手の作業用皮手袋やゴム手袋）、帽子、防寒具、雨具、靴（厚底でくるぶしまであるもの）

身の回りの品／洗面用具（トラベルセット、タオル）、ゴーグル、マスク（数日分）、トイレトペーパー（芯を潰すとコンパクトになる）、メガネ（不要になったものを予備に取っておく）

救急用品／三角巾、伸縮包帯、絆創膏、消毒液（使用期限に注意）、常備薬（使用期限に注意）、通院中の場合には処方箋のコピー

貴重品／預金通帳のコピー、身分証明書（運転免許証など）、健康保険証のコピー、現金、印鑑

その他／筆記用具（ボールペンやノートなど）、ガムテープ、ラップ、ビニール袋、食器（割れないものや使い捨てのもの）、ベビー用品、生理用品

災害対策3つのパック

備

自然とともに暮らしていくには…

① 枕元パック

夜間の非常時、次の行動へとスムーズに移ることができるよう、枕元に置いておきたい物品。

懐中電灯／世帯用の懐中電灯とは別に用意。いわば懐中電灯を探すための懐中電灯。

ホイッスル／建物や家具の下敷きになった場合に、自分の居場所を教えるためのもの。大声を出すよりも体力の消耗を抑えられる。

スリッパ／床に散乱したものを、特にガラスでケガをしないようにするためのもの。使い古しの運動靴でも可。

② 常時携行パック

道路の寸断や浸水などで帰宅難民にならないよう携帯しておきたい物品。

帰宅地図／職場や学校から自宅までの地図。通れない道などの情報を書き込む。

携帯ラジオ／コンパクトなものがより良い。

ミネラルウォーター・お茶／250～500mlのペットボトル。災害発生直後ならコンビニなどで調達することも可能。

携行食／アメやドロップ、シリアルバーなどコンパクトで高カロリーなもの。

タオル／プレス（圧縮）タオルやバンドナ。手ぬぐいもコンパクトで携帯に便利。

雨具／大型のビニール袋でも代わりになる。

懐中電灯／小型のLEDがコンパクトで点灯時間が長い。長時間歩くことを考えると明るさよりも持続力を重視する必要がある。

個人で備蓄する際のコツとして、日常で使う食糧を少し多めに買っておくという方法があげられます。

水やお茶などの飲料を多めに2箱買って、1箱使ったら1箱買い足す、ローテーションをすると無駄はありません。食糧としては子どもたちが好きなお菓子でも備蓄品として有効です。お菓子は高カロリーのものが多いので非常食として活用できます。先に申し上げたとおり、支援物資の供給が72時間なので、その期間を乗り越えてもらうことが重要になります。

今年の梅雨もそろそろ明けます。ですが気象台によると、毎年7月の下旬に県内では決まって大雨が降ります。過去30年くらいの数字を見ていても高確率で大雨が降っているため、注意をお願いします。



役場総務課防災係
むらかみ まさる
村上 勝 主査